

平成28年度 第2回中小企業振興会議 農業振興検討部会 議事録

日 時	平成29年3月1日(水) 午前10時から午前11時20分まで
場 所	クリエイターズプラザ3階 研修室C
出席者	○ 農業振興検討部会委員 石井委員、上田委員、多田委員、田中委員、谷川委員、福田委員、山田委員、浅田委員 (欠席：塩路委員、園田委員、平田委員) ○ 事務局 農政課 土山課長、中洲総括主幹、紀先主任
案 件	1. 援農に関するアンケートの集計結果について 2. 援農に関する検討 3. その他
議事要旨	<p>【開会】</p> <p>【事務局から】 ・ICレコーダー録音の承認 配布資料の確認。</p> <p>【質疑】 (委員) 年度末を迎え、ご多忙のところ参加いただき、ありがとうございます。東大阪市中小企業振興会議についても年度末で何らかの形で最終的な提案をしていくことになるかと思えます。委員の皆様におかれましては、東大阪市における農業の振興に関わる諸問題あるいは現状を一定ご理解いただけたのかなと思えます。このことを踏まえてまとめをしていきたいと思えますので、委員の皆様方のご協力をよろしくお願いたします。</p> <p>(委員) 最近、農水省からお茶の流通に関する委託をいただき、民間のコンサルタント会社と一緒にやっています。お茶の生産から最終処理は分かっているんですが、中間のお茶のブレンドの仕方とか輸出とかについての調査の依頼があり、コンサルタント会社の方が色々調査しているところなんです、輸出はどんどん増えていますが農家の手取り価格が下がってきてまして、輸出と農家の所得とがうまくかみ合う解決策があればいいと考えています。年度末ぎりぎりに話があったので時間がなくて困っているが、それでも、農業の方に大阪の野菜とかコメにも使える結果が出ればいいと考えています。</p> <p>【事務局】 アンケート集計結果等資料の説明 (委員) 資料説明で集計結果を踏まえた援農ボランティア・サポーターバンクシステムの構築という形でまとめていただいた。これからの構想なり具体的な課題というか検討内容をまとめていただいている。アンケートの数字の見方は色々あるかと思えます。そこでまず説明に関わって、疑問点等あればご発言いただきたいと思えます。その後、この内容についての検討をしてまいりたいと思えます。</p> <p>(委員) アンケート集計結果資料の数値についての確認。 (委員) 農業栽培支援に関するアンケートはどういう対象者を選んだのか。</p> <p>【事務局】 一般市民向けということと市政情報というところでコンピューターで無作為抽出で20歳以上を選んだ。そこが600通。そして消費者団体協議会の方に31通。老人大学の方が60通。合計で685通になっています。先程申し上げなかったが年齢構成は消団協と老人大学の方の集計で50代60代70代の方がいらっしやいますが、中々そこの方には20代30代40代50代は少なかったんですが、そこは一般の無作為抽出の方で数値として人数としてでていますので、全体的には平均的な配置の人数の結果になったのではないかと考えています。 (委員) 何故、無作為だけで集計されなかったんですか。</p> <p>【事務局】 消団協と老人大学というところが今までも部会等に関わっていただいていますので、そのところも必要ではないかなということもまとめさせていただきます。 (委員) まぜてしまうよりも別扱いにした方が良かったように思うんですが。</p> <p>【事務局】 ここにはお示ししていませんが、消団協と老人大学の方の集計結果を分析しても一般の方との大きな差異はございませんでした。 (委員) 資料には大学、小中学校とあるが先生なのか生徒なのか。</p> <p>【事務局】 イメージは生徒・学生さんを想定しています。 (委員) JAでは色々な意味でスタートラインですけども職員の農業体験がスタートしたばかりだが、その中でこういうお手伝いをして欲しい方は、実際は草ひきとか、ナスビ、キュウリでその時期だけ手がいるとか、網張ってほしいとか、そういうことがすごくある。実際は一部の人かも知れないがいい意味でも悪い意味でも結構プライドを持っている方が多くおられていまして、仮に定植をまかせてもらえるのかということ、それは困るといふところもある。現状そういうところもあるということを理解していただけたら。</p> <p>(委員) 農政課の方でアンケートから現状把握を踏まえた上での将来展望あたりの文言、それと具体の検討ということで農家さんと援農を希望する市民の方を結びつけるシステム化もしくはマッチングの手法あたりの案としての提案がありますし、もう一方ではボランティア養成、体験事業を通じた援農についての具体的な案もでてきておりますので、そういった側面における委員の方々の忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>(委員) 資料には大学、小中学校とあるがちなみに高校も含んでいるのか、その辺はどうですか。</p>

【事務局】特に他意はありません。高校も含めてということになります。

(委員) 農政課の話の中では例えば今まで単発的に大学の或る学生さんが援農に関わった事例があるということ踏まえて大学が入っていますし、小中学校においては食育・食教育の観点で関わってきておられるということで、そのイメージで多分2つの文言がでてきていると思う。もちろん高校についても団体として視野に入ってくればそれも有りということだと思う。今のところ高校と具体的な接触というのはありますか。

【事務局】高校とは直接はないですね。

(委員) アンケート結果をみて農家側3割希望されている。コメの場合というよりも野菜の場合をみると、草ひきとかキツイ仕事で夏場の暑い時の水やりとかを期待されている。コメでも稲刈り、田植えというのが頭にきているが殆どの場合が機械作業であり、機械作業は農家がするが機械が入らないキツイところの作業をして欲しいというのが多分あると思う。逆に市民の方はどちらかと言えば土・日に楽しみたいという意思がこのアンケートから見えると思う。というのは、市民の方で栽培経験あるのは割り方果菜類で実のなるのが多い。でも実際に農家でも家庭菜園の方は色々作っているが出荷する程度になると果菜類は意外とない。どちらかと言えばこの辺は軟弱野菜が多いですから、そういう収穫というのは農家のアンケートでも収穫というのは殆どないと思う。順番では3番になっているが実数は少ない。そういう大事な仕事はさせたくないというのがある。市民の方は収穫して面白いので参加したいという気があるので、その辺がちょっとズレがあるのが、システムでマッチングというのがうまく機能するか、かなりこのところがポイントになるかなと思う。

(委員) 話を聞いていて農家のコメの面が大きい。米作りというのは重要な重大な作業があるが全体的な作業、田んぼでコメをつくるというその作業全体を、もう高齢でやっていけない。大変なんで作業してもらえないかなという風になっていると理解した。実際のところ農地自体は現在減っているが、その中で農協に受委託されているが、今までなら田植えだけ、稲刈りだけだったのが出来る事なら全て、最初の耕運から稲刈りまでコメになるまでやってもらえないかな、という話は年々増えてきている。

(委員) この辺は生産緑地で農地として割と残っている。トータルで農協に請け負っていただくということは自分で作らないことなので、法律上はダメなんですね。例えば学校なんかの公共のところ稲刈り作業なんかをしてもらうのは税務署の方でもOKは出ているみたいだが、全く自分で作業をしないで受委託に出すのは生産緑地に指定されている所は基本的には出来ないということがありますので、一つの作業位ならOKなんですよけどね。

(委員) 生産緑地にしても納税猶予農地にしても放耕規制とかそういうところの規制が結構キビシイところがあるかという風に思います。前回の検討部会の議論の中に都市農業振興基本法の法制定があつてこれからどうなっていくのかというお話をお聞きしたと思うが、何かそれ以降お話しただける様な内容はありますでしょうか。

(委員) 生産緑地制度が平成4年以降30年間ということで、あと4~5年で区切りを迎える。今は3ヶ月の間に買取り請求制度があるが、営農が出来ない事由が発生すれば申出の制度があつて東大阪市は平成4年から始まって、ここ数年の間はかなり死亡されたりして営農を続けていく余裕がないとそれで買取請求される。公共用地で使用可能であるか、そうでなければ関係する農業者に農地を拡大して営農していきたい農家についてJAグリーン大阪、JA大阪中河内の両組合長宛に毎月の様に問合せをしているが今まで1件も市が公共地として買取り取得したケースもないし、農家が買取ったケースもない。大阪府下でも聞いたがこれが全くゼロという様なことで、府下では少なくとも1~2件位は公共用地として活用したいという事例があつてしかるべきでなかろうかと思つていましたが現在1件もないという状況にある。このままでいくと3ヶ月経過して、農地法の4条なり5条なりで自分で転用したり、あるいは第三者に農地を売ることになる。この制度がこのまいくと、税法上も厳しくなる一方で急激に農地が宅地化と同様に転用、転売が進むことが考えられ、そうなると実際、相続や重度の故障で営農出来なかった場合、転売したり農地を売買したりするケースが増えてくると、今からそういう不動産を扱っている業種の方は今から働きかけられ、かなり処分されることが増えると予想される。そうなると地価の下落も招き、需要と供給のバランスが崩れてくるという見通しをたてる考えもあります。この制度が30年の経過があつて4~5年に迫っているというのが今の状況です。

(委員) 中々システム化というのは難しいかなと思う。JA大阪中河内も毎年受託が増えてくる中で、人間的な問題もありますし、柏原・八尾・松原市も含む中で先程の納税猶予農地とか、食農教育で幼稚園・小学校に指導は沢山してるんですけども、そういう場所で援農の方にボランティアで手伝ってもらおうとか、うちも営農指導員の人数に限りがあるので、といたしますのが、水田が結構多くて用地で2万5000a位あるので、その内の田んぼ、苗箱を年間7000枚位みんな買われる。全て受託で任されています。白ひきから稲刈りまで全部頼むという人が毎年増えています。勿論、農地の保全にはいいが都市の環境面からも農地は保全すべきと分かっているが農家としてはどうしても後継者がいない。離農とか、どうしても耕作が出来ないという人が多くなっている中で受託にも限りが出てきていますので、まだ拡大の必要は感じているが、それよりも援農が一つも出来ていないので、その意味で食農教育の場とかでお手伝い出来る様な、そういうシステムの方に手伝っていただくと助かる。というのは特に田んぼなんかは大きな機械コンバインとか1000万位するような大きな機械があるが危ないので人の補助つけないといけない。草刈機でも保険に入るがケガでもしてもらったら大変です。その辺も考えますと限られてしまう。難しいかなと思う。ただアンケートを見ていると30%の人が手伝ってもいいよということができていますので、その辺の期待にも応えないといけないと思います。

(委員) 確認したいんですけども、このシステムは無償でさせることを前提にしているんですか、

【事務局】そうです。

(委員) 無償が前提というのは確定ですか。

【事務局】いえいえ、有償ということにすると色々な方が増えて混乱するのかなと。純粋に農家の方を応援したいという人がどれだけいて、何が出来るのか。まずそこから探った方がいいのかなと。そういう意味で無償に

しました。

(委員) 農協側からすると本当にコラボ出来たらもの凄くいいものになると思う。委員皆さんが仰っている様にシステム化して出来るかどうかですわ。トラブルをどうするのか。そこらは慎重に進めないといけないのかなと思う。悪いとは決して言わないが、これがスムーズにいけるなら。パッとスタートした瞬間の怖さはあるのかなと思う。いいことはいいことなただけど。

【事務局】無償でもお手伝いしたい人が逆にいうと3割もいるということの方が驚きで、そんなにいてるんだと。

(委員) 手伝いたい方は楽しいと思う作業で、手伝ってもらいたい方はしんどい地味な作業を望んでいるのかな。

【事務局】タダで、なおかつ草刈りでもいいと答えている人がいるのは意外やなと感じている。

(委員) 営農研究会という昔の青年部の流れで小学校の田植え作業、稲刈り作業、ジャガイモ実習とかを一緒にやってるんですけども、それは食農としてはいいんですが。実は私、昔マンションを建てまして、その入居募集に「田植えが出来ます」という特典付きを宣伝して募集したことがある。10年続いたんですけど、こちらが大変になってもうやめたんですけど、ある意味家族で参加して子どもたちに関心・理解をもってもらうためにやってるんですけども、大人の方が子どもより一生懸命楽しむんですね。役所の方も色々しているが、実際に大人の方でやりたいという方は確かにあると思うんですよ。この資料の下の方の具体化の検討Bのところを見ていくと、2. 家庭菜園講習会をしてもらう3. 農家が育成コーチをするとあるが、逆に東京の練馬とかがやっている農家が教えて、そこで栽培する、参加費をとってという、そっちへいくのも一つの方法なのかなと思ったりもする。大阪でも一か所できたみたいですけども中々無償となると、どっちも割り切れんところがあるのかなと。やってもらうにしてもね。参加される方もやっぱり、ただ草刈りだけで終わってしまうと、収穫してもって帰るといことになれば喜ぶこともあるでしょうが、夏場の草刈りやってハイ終わりというのは、せっかく来てもらった人にも失礼な様に思う。お願いする方にしても気が引ける様な感じがします。

【事務局】ですから無償を前提にして何かするという意味ではないということです。あくまでも意識調査としてとらせてもらった上で、これを土台にして何が出来るのかなというのを考えていけないのかなと思います。

(委員) サポーターバンクシステム構築の一番はじめに、「農家サポーターの技術力向上は不可欠である。そのために講座を開いて支援者育成をしないとイケない」という様なことが書かれているようで、その一方でアンケート結果を見ていると農家の方は、経験がなくて指示通り作業してくれる人がいいという所があるのかなと思う中で、このシステムを構築していく上で多少なりとも、ここに書いてあることを考えると、こういう農業知識を植付けてからバンクに登録して、そこからシステム化してそれぞれ援農してもらうという考えでいく予定なのか、それとも都市農業を守っていく上で土に携わっていく人間を増やしていく、そこから地産地消を生み出していくという方向と、どっちなのかなというのが一つありまして、その辺がアンケートと少しだけ祖語が出ているのかなと思った。

【事務局】祖語というかアンケートを見ても、「農作業をよく知っている人」というのが圧倒的に多い訳で、そういう意味でいうとそういう人になっていただいて受入れるというのが農家の基本的な思いかなと思いますけども、だからといって1番シンドイ草刈りとかをしてほしいので、「指示通りやってくれる人」でもいいのかなと思う。収穫だとか定植だとか種まきだとかという、その行為自身をいい加減にされると商品価値が減っていくとか、収量が減るとかなるので、そういう所を手伝うとなるとそれなりの人かなと思いますので、その所はどこかの機関が育成をするのか、それとも農家さん自身と気のあった者同士でそういう援農者を教育していただくのか、色んなやり方があるんだろうと思うんですけども、それだけということではなくて色々な手法を構築出来ればいいのか。そのためにはまだまだ我々も経験少ないので、いざするとなればそういうことも含めて検討していかなければならないのかなと思います。現実、啓発協の色々な体験事業をさしてもらっている中で、優秀なというかそういう市民の方が現におられて、その方とたまたま農家さんが意気投合されてそれで農作業を手伝ってもらっているという事例もあるので、そういう意味で言うとそういうマッチングというのを機会を増やしていけば農家さんと知り合う機会も増える訳で、それだけでも援農サポート構築のための仕組みになると思いますので、だから何かというのは決まりませんが色々な方法があるんだろうと思います。ただ、今の農政課の体制でいうと全部情報を請け負って斡旋をして教育をしてとなるとスタッフとしては足りないという意味がありますので、掲示板で書き込んでいただくなり、手伝いたい・手伝って欲しいという人があればそういう情報を農家さんに、あるいは市民の方にお渡しをして後はお互いに話し合いをしていただく、その中で無償ではなくて有償でという話に踏込んでもらってもいいのかな、という事を含めて、そういうイメージも考えているという事です。

(委員) 私はこのシステム構築についてのまとめの文章を見させてもらって、右側に○が2つあって、2つめの○のところで「援農を収穫だけに終わらず援農側の有効利用・加工品づくりの構想」というところもイメージ的には描きやすいのかなと。例えば一般市民の方がこの部分だけやってねといっても、単発的であったとしても、それって長続きしないと思う。一回やって「これは大変や出来へんわ」となると思う。一般の方が達成感。これをやって「何につながるんや」というのがないと中々続かないと思う。達成感を何に設定するかということも一つのポイントになるのかなと思う。そういう意味でいうと、例えば今まで農政課のお話を色々聞かせていただく中で出来上がったものを2次加工してこういう製品にしますよという事例も色々聞かせていただいて、そういうところにボランティアの方が参画の方がむしろ、農家さん側も将来的にこの農作物がどういうイメージ、製品になっていくんやというイメージ等、一般消費者の方が援農されて、こういうものになっていくんや、というイメージが合えば結構面白いかなという風に思ったりするんですけども、あれもこれもというよりも何か一つのビジョンなりモデルケースを描いてそれを実現化していく過程づくりをしていくのがいいのかなと考えたり、事務局の話で、こういういい面もありますよというお話も聞かせていただいて、そういうものをキッカケに取組んでいったらいいのかなと思いました。

(委員) やはりサポートする側が今の達成感というのがモチベーションとして重要になってくると思いますね。

【事務局】実際そこまでイメージをしておられる事業者さんも話はいくつか聞くんですけどもただ、やはり事業者さんも自分個人ではお米一つ作れないという訳なんで、当然色々な手が周りにいないと、という事になったりするのをどういう風に援助できるかという事にもなるんでしょうけど、そうするとそういう農地をもっているのは個人あるいは家族ですけども、既に個人、家族がお手伝い出来ないという状況の中で、じゃあ第三者がそこにどうやって関われるのか。ということにならざるを得ないのかなと思うんで、農家さんのもっている農地を単に助けるというだけでは少し物足りないというのはあると思います。

(委員) 小規模農家が多いという面からもムスカシイのではないかと思う。大きな農家であれば沢山の人で1シーズン通じて収穫まで喜びをもってもらって手伝ってもらえる。ただ2反3反位で一人しかおられなかった、一例をあげますと、もしジャガイモでしたら畝から畝作ってジャガイモの種イモを何種類か、男爵・メイクィーンこれを切ってこうして植えるんですよというのを勉強してもらいながら最後の収穫まで、途中、畔の草刈りとかもあります。先程仰った様に草刈りだけやったら、その日だけでキレイになったな、で終わってしまいますんで、やはり最初から最後まで決めて、手伝ってもらう人にも最後お礼が渡せて喜びも与えるような、せめて半年から1年スパンを考えていただいたらいいのではないかと思う。柏原地区ではブドウ農家が多く、シルバー人材センターに手伝ってもらったり、若干援農の方もおられますがやっぱり、そういう人も普段の手入れからブドウの収穫、その後の加工品づくりまでやっておられます。ブドウのジュレまで作って販売しているところもあり、そういうことまでやると、やりがいあるかなと思います。ただ単発の仕事は結構あると思うんですよ。そこが現状との難しいところかなと思います。

【事務局】日常の生活から離れた体験というので、単に自然と親しみたいということで農業という形でなくてもとにかく、違う体験をやりたいと、それが草ひきとか水やりとか単純だけど自然と関わる様なことをしたい、という人は結構いるんですよという様なことを書かれていたんですが、その辺は中々難しいですかね。ただ単純な面白くない作業でもいいという人は。

(委員) 確かにそういう方もおられると思います。非日常のことをやりたいというのは確かに感じている人は。土を触ること、そのものがしたいという人もいでしょうね。

(委員) 前に聞いた事ありますけど、草ひきとかやっていると無心になれる。禅の気持ちと一緒にタダで悟りの境地になれると。確かにそうなんです。全然何も考えないで良いと。でもそれは、それだけでいいというのは私は可哀相かなと思うんですけどね。

(委員) 私も農村研修に1ヶ月いったことがあって、毎日トマトの分け芽摘みをして、1ヶ月経ってから分かった様な。肝心な所はやらせてもらえなくて。

(委員) 全く話は違うが。この前TVのNHKで、携帯なりで音楽聞きますよね。ヘッドフォンとか街なか見てもイヤホンで音楽聞きながら自転車乗ってる人もおられるんで。ある話題の中でどんなこと言ってるかという、ある部屋を準備して音楽を聞きたい人に集まってもらって共通の音楽を聞くのではなくて、それぞれバラバラの人がイヤホンで聞くという会をされているのが紹介された。私の感覚でいうと同じ集まるなら同じ音楽を聞いたらどう思うんだけど、そうじゃないんですね。だから価値観がもの凄く多様化して何を求めているのか解らへんとい所が、それを見ていて思ったりして。我々が思う以上に事務局が言った様に単純にそうしたいねんという方も意外といるのかなと、甘い考えかもわからないが。ある意味で確かに一連の何かの達成感というのもそれも本当のことだと思うし、だから色々なニーズがあると思うので、そのニーズを区分けしながらというか、そういうシステム化があってもいいかなという気はしますね。

(委員) ほか委員の方々のご発言いかがでしょうか。皆様方のご意見がいただいて、本日の農業部会もある一定の意義もあったのかなと思います。3月の末に東大阪市中小企業振興会議がございます。そちらの方に28年度をもって中小企業振興会議の一定の結論というか各部会のまとめというものを提案してまいる必要がございます。委員の方々にもう一度集まってまとめをやりましょう、というの中々時間的に難しい所もありますので、本日のご意見あるいは農政課でまとめた援農ボランティア農家サポーターバンクシステムの構築といったところをベースにしまして皆様方のご意見を集約した形で一度、私、多田先生あるいは農政課の方と調整をさせていただきまして、まとめを作らせていただいて3月24日の振興会議までに皆様方にお目通しをいただいて何かご意見ある所はご指摘いただいて、修正・加筆をさせていただいて振興会議の方に提案をさせていただきたいと思っています。その様に進めてまいりたいと思いますので、これ以降は事務局の方に司会を移らせていただきます。

【事務局】・連絡事項と閉会のあいさつ

【閉会】11:20